

令和3年 **6**月の**優しさ**通信

目次

- (1)  ヤングケアラー 家事・子育て軽減
- (2)  高齢者デジタル講習 総務省、5年で1000万人
- (3)  大往生 医療費抑える 全国で格差最大40万円
- (4)  大阪、骨折多く医療費増加 府全体の30%、長期入院の原因
- (5)  高次脳機能障害 32万人 見た目変わらず無自覚も

♥今月の福祉用具－自助具 自助具の選び方 食食用自助具の使用上の留意点

(1) ヤングケアラー 家事・子育て軽減

厚労省・文科省が支援策 SNS相談体制も整備

*家族やきょうだいの世話を担う18歳未満の子供「ヤングケアラー」の支援を目指す厚生労働省と文部科学省は、幼いきょうだいをケアする子供のいる家庭に対し、家事や子育てを支援する制度を整備する方針。

*SNS（交流サイト）を活用した悩み相談体制を支援。

*実態調査をするよう、都道府県や政令市に促します。

*大阪市は市内の中学生約5万人を対象に独自調査する方針。

*社会的認知度向上のため、2022~2024年度を集中取り組み期間に。

*国の調査では、約17人に1人の中学生が「世話している家族」がいます。

(2021年5月18日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 高齢者デジタル講習 総務省、5年で1000万人

*総務省は2025年度までの5年間で延べ1000万人の高齢者を対象に、スマートフォンやマイナンバーカードの使い方を教える講習を開きます。

*スマホを使えない高齢者は約2000万人いるとみています。

*6月から始めます。

(2021年5月19日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 大往生 医療費抑える 全国で格差最大 40 万円

モデルは神奈川、愛知、和歌山

*国民医療費は 2018 年度は 43 兆 4 千億円で、10 年で 8 兆円余り増えました。

・医療費が最も低い岩手県は 74 万 6 千円、最も高い高知県は 113 万 7 千円。

*病床数が多いと医療費が高くなります。必要度の低い入院や長期入院が増えるから。

*死因で老衰と脳卒中も多いと医療費が少ない傾向。

*長野県は平均寿命が長く医療費が少ないです。

・老衰とともに脳卒中も多くなっています。

・岩手県のほか、静岡や三重の各県も同じ傾向。

*愛知県は県内市町村の 8 割で老衰が全国平均より多くなっています。

*高知県は老衰が少ないです。

・病床数は全国最多で、最も医療費を費やしながら健康寿命につながっていません。

*医療費が低い地域は高齢者の就業率が高く、保健所などの保健師が多い傾向。

(2021 年 5 月 22 日 産経新聞記事より抜粋・引用)



(4) 大阪、骨折多く医療費増加

府全体の 30%、長期入院の原因 高齢者の虚弱予防必要

*原則 75 歳以上の後期高齢者の 1 人当たり医療費 (2018 年度) は京都、大阪、兵庫の大都市部が 100 万円を超え、全国平均 (92 万 6 千円) を上回ります。

*和歌山県は老衰が多く、脳卒中は少なく、医療費は 91 万 4 千円。

*大阪府は 106 万 4 千円で 4 番目に高くなっています。

*大阪府は脳卒中が全国比で男性が 1 割、女性で 2 割少なくなっています。

・老衰も男性で 3 割、女性で 2 割少ないです。

*骨折などを含む「筋骨格系」の医療費が大阪府全体の医療費の 30% を占め最も多く、全国平均 (27.2%) を上回りました。

*骨折は生活支援が必要になる理由の 3 分の 1 を占めます。

*転倒するのは、全身の筋肉が弱くなるフレイル (虚弱) も背景に。

・フレイル状態になると、飲み込む力も弱く、唾液などが肺に入って炎症を起こす誤嚥性肺炎につながりやすくなります。

*人間ドックを含む健康診断の受診率は2012年度の20%から少しずつ上昇し、2017年度は23%に。

(2021年5月22日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(5) 高次脳機能障害 32万人 見た目変わらず無自覚も

*2016年に高次脳機能障害と診断されたのは32万7千人。

・障害者手帳の取得率は66.4%と推計されています。

*高次脳機能障害は脳卒中、心肺停止による低酸素脳症、事故の外傷などで脳が傷ついて起きます。

*外見に現れない「見えない障害」と呼ばれ、症状に気づかない当事者もいます。

(2021年5月31日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



今月の福祉用具－自助具 自助具の選び方

食食用自助具の使用上の留意点

*本人に自分で食べたいという意志のあることが大前提。

*自助具の使用は、周囲が押し付けてはいけません。

*疲労や誤嚥の問題がないこと。

*良い姿勢確保のために、食事場所を決めて、使う椅子と机の関係を決めます。

*静かにゆっくり、1人ででも時間をかけて楽しく食事のできる環境を整える必要。

*食事の姿勢は、ベッド、床布団上でも、背もたれを使ってでも、上体を30度以上、できるだけ直角に起こして飲み込みやすくします。

*リラックスできる体位が理想的です。

*自助具は使用者本人の自信につながるように。

・こぼしても、食べ続けられる自信を持てるよう、細かく配慮することが大切。

(参考：福祉住環境コーディネーターテキスト&福祉用具専門相談員研修用テキスト・介護用品カタログより)